

# 国立三瓶青少年交流の家キャンプファイヤー詳細要項

2025.4  
国立三瓶青少年交流の家

国立三瓶青少年交流の家（以下、交流の家と記載）の研修としてキャンプファイヤーを実施する団体は、次のことから十分理解してその目的達成に努めるものとする。

## 1 意義

火は古来から、人間社会の文明の発展に大きく貢献してきた。そして、火は人間の心に愛情と知恵と勇気を与えてくれた。

キャンプファイヤーは、三瓶山頂で採火した「まことの火」を中心に、雄大な自然と夜のとばりの中で燃えさかる火のごとく若き血をたぎらせるとともに、ある時には厳粛に、ある時は楽しく、自分の心を省み、現在を知り、未来に健やかなまことの人間になることを期待して実施されるものである。

## 2 目的

- (1) 燃えさかる炎との一体感を通して、よりよく生きるための意欲を喚起する。
- (2) 交流・交歓を通じて、お互いの友情を深める。
- (3) 火の大切さとともに、動物や環境に対する関わりを考える。また、人間と自然界の関わり方を考える一助とする。

## 3 実施の基本事項

### (1) 期間

原則として、4月～11月の間実施する。

### (2) 時間

19:00 頃～22:00

### (3) 一斉実施可能人数

400人まで

### (4) 対象

交流の家の研修団体

### (5) 運営

団体による自主運営を原則とするが、依頼があれば交流の家研修指導員（以下、研修指導員と記載）が行う。

### (6) 指導者

実施団体内で指導者を定める。ただし、依頼があれば研修指導員が務める。なお、研修指導員が指導者を務めるときは、指導は21:00までとし、指導時間は1時間30分程度とする。指導料は研修指導員1人につき1回6,600円とする。

### (7) 実施担当者

団体は、キャンプファイヤーの実施担当者を1～2人決めておく。

### (8) 安全管理方針

- ア 団体代表者及び実施担当者は参加者の様子を掌握するとともに、安全指導の徹底に努める。
- イ 最大瞬間風速が10mを超える時はキャンプファイヤーを実施しない。また、天候の急変などにより、交流の家から実施の中止を要請することもある。
- ウ 火災発生時は、団体代表者の指揮の下で初期消火と参加者の避難、誘導を行う。また、実施担当者は交流の家事務室（警備員）に緊急連絡する。【交流の家夜間番号:0854-(86)-0319】

## (9) 事前打ち合わせ

ア 実施担当者は、事前に別紙「確認表」に貸出物品や実施方法等について記載の上、交流の家に事前提出する。

※研修指導員に指導依頼する団体は概ね実施の1週間前までに研修指導員と事前に打ち合わせの上、「確認表」を作成し、交流の家に提出する。

イ 実施担当者とは当日の会場準備開始時刻の10分前に事務室に集合し、職員と共に「確認表」に沿って購入分品や貸出し希望物品の数を確認し、「まことの火のランプ」とその他、音響機材などの貸出し物品を受け取る。

※会場準備についての詳細は、「7 実施上の留意点」に記載。

ウ 研修指導員に指導依頼する場合は、実施の約30分前に事務室で実施担当者と指導員との最終打ち合わせを行う。

## (10) 展開の形態

定型はないので実施団体の任意を原則とするが、研修指導員に指導を依頼する団体は、交流の家の展開方法（本キャンプファイヤー詳細要項）に沿って実施する。

## 4 実施要領

### (1) 役割（スタッフ）

#### ア 火の長（1人）

→キャンプファイヤーの総責任者であり、主として団体の代表者が務める。

1部では『火をたたえることば』、3部では『研修の成果』『明日への期待』を述べる。

#### イ 火の司（1人）

→全体の司会・進行をする。研修指導員に依頼するときは、研修指導員が務める。

#### ウ 火の使（4人）

→火の運搬と点火をする。内1名は火の使いのチーフを務める。

#### エ 火の守（2～4人）

→火床に点火された時から終了まで火の管理を行う。

※原則として火の守は児童、生徒が担当しない。

#### オ 火の子（各班1人）

→第3部で誓いのことばを一言ずつ述べる。

#### カ 会場係

→事前準備や事後の整理を行う。

### (2) 班編制

研修者を6班程度に編成する。

※展開の2部でのスタンツの実施時間の都合上。

### (3) 会場

営火場、第2営火場、グラウンド

### (4) 貸し出し、購入、持参物品

#### 交流の家の貸し出しができる物

○まことの火（移動ランプ）

○新聞紙

○ワイヤレスアンプ（マイクつき）

○第1営火場用ワイヤレスマイク（2本）

○CDデッキ

○懐中電灯

○革手袋

○第1営火場の鍵※放送設室内を使用する場合は必要

#### 交流の家で購入できるもの

ファイヤーセット（薪10束、灯油2L）、トーチ棒用着火剤（トーチ棒1本につき2個使用）

※料金は年度によって変動するので、詳細は別紙「おすすめプログラム集」や「利用ガイドブック」参照。

#### 《トーチについて》

○トーチを持ち込む場合は、使用しなかったトーチや、使用後の針金等は持ち帰ること。

○環境に配慮したキャンプファイヤー実施の観点から、参加者用トーチは一人1本ではなく、グループに1本程度にとどめることを推奨する。

#### 団体が準備する物

○スタンツの小道具

○軍手

○営火長の衣装等

## 5 展開

### (1) 1部:迎火…まことの火を迎えるセレモニー (約 10分)

順序	項目	内容	留意点
1	全員入場	○開始までに静かに入場し、班毎に位置する。また、火の子は、班内の最前列に位置する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場内消灯する。</li> <li>・整列の仕方は会場図参照。</li> <li>・私語をやめ静粛にする。</li> </ul>
2	歌	○火の司の合図により、「遠き山に陽は落ちて」を斉唱し、続いてハミングする。	※指導者によってはカットする場合がある。
3	開会のことば	○火の司が開会宣言する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営火場で実施するときは、「火」はトンネル（野外ステージに向かって左側）から入場する。</li> </ul>
4	まことの火の入場	<p>○火の使のチーフは、火の司の合図で火を持ち、場内を1周して火の長の前に立つ。</p> <p>○火の使のチーフは、運んできた火を火の長に手渡し、所定の場所に位置する。</p> <p>○火の長は受けた火を高くかざして全員に示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場内を1周するときは、時計の逆回りに小走りに走る。</li> <li>・全員で拍手をして火を迎える。</li> <li>・全員拍手を強める。</li> </ul>
5	火をたたえることば (営火のことば)	○火の長は1歩前に出て火をかけた、キャンプファイヤーの意義、目的を1分間程度で威厳を持って高らかに述べる	
6	点火	<p>○火の使（3人）は営火長の前に出て分火を受ける。</p> <p>○火の使は、火床まで進み4地点に立つ。</p> <p>○火の使は、火の長の「点火」の指示で火をかざし点火する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後に火の使のチーフは、火の長のトーチを受け止める。</li> <li>・火の使は4人。</li> </ul> <p>※着火剤が燃え尽きたら、トーチは薪組から取り出す。</p>
7	献詞	○火の長は、火をたたえることばを述べる。	
8	歌	○全員で「燃えろよ燃えろ」を斉唱する。	※指導員によってはカットする場合がある。
9	1部終了のことば	○火の司は、1のまとめにことばを述べる。	・場内を明るくする。

### (2) 2部:交歓・・・楽しく和やかに (約 50分)

1	○ゲーム・ソング・フォークダンスなどを、火の司の進行で行う。
2	○各班のスタンツ（出しもの）を、出入れを含めて5分以内で披露する。
3	○火の司のインタビューなどで、楽しい語らいをする。
4	○その他、臨機応変に火の司の進行で実施する。

※火の守は火床の管理をする。2部の終わりごろには、薪組みをなくして（燃やして）小さな炎にする。

### (3) 3部・送火…まことの火を送るセレモニー (約 20分間)

順序	項目	内容	留意事項
1	整列	○（全員）静かにトーチを持ち、所定の場所に位置する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場内消灯。</li> <li>・火の使のチーフは、自分のトーチも準備する。</li> <li>・トーチは、火のついた方を上にする。</li> </ul>
2	歌	○火の司の合図で、「ふるさと」「校歌」等を斉唱する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌えなければ、無しでも可。</li> </ul>
3	分火	<p>○火の使のチーフは、火床の前に進み炎から採火し高くかざす。</p> <p>○火の使のチーフは、営火長の前に進み火を手渡し元に戻る。</p> <p>○火の長は火を高くかざし全員に示す。</p> <p>○火の子は、火の司の合図で営火長の前に半円形に整列する。</p> <p>○火の長は前に並んだ各火の子に、ファイアーネームを言って分火する。</p> <p>○火の子は分火された火を班に持ち帰り、中央の人に（2列以上の場合は後ろにも）の人に分火する。</p> <p>○分火してもらった班員は、それぞれ隣の人に分火する。</p> <p>○火の司は、分火の状態を見ながらナレーションを入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「○組（□班）には○○の火をさすけません。」</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※トーチの扱い方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火がついていない時：下向き</li> <li>・火をつける時：上向き</li> <li>・火がついたら：上向き</li> <li>・振り回さない</li> </ul> </div>
4	誓いのことば	<p>○火の子は、班員に分火される間に、火の長の前に半円形に再び整列する。</p> <p>○各火の子は、1歩前に出て火を高くかかげて「誓いのことば」を述べ、始めの位置に戻る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はっきり、ゆっくり述べる。（台本を見ながら言ってもよい）</li> <li>・「○組（□班）には○○の火をいただきました。（誓いのことば中身）…することを誓います。</li> <li>○（□班代表）[フルネーム]</li> </ul>
5	営火長のことば	○火の長は1歩前に出て火を高くかかげて、「研修の成果」「明日への期待」を1分間位で述べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バックミュージックを低く流す。</li> </ul>
6	むすびのことば	○火の司は、営火長のことばをうけて、研修者にふさわしい詩の朗読したり、生きがい論について話したりする。	
7	全員退場	<p>○全員がきちんと並んで退場する。</p> <p>○火の長と火の使チーフは全員退場するまで見守る。</p> <p>○火の司は、火の燃える状態を見ながらナレーションを入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌「蛍の光」「今日の日はさよなら」などをハミングする。</li> <li>・やけどしないように前後の間隔に気をつけて退場する。</li> <li>・場内を明るくする。</li> </ul>

## 6 実施上の留意点

### (1) 事前の「確認表」提出

実施担当者は、事前に別紙「確認表」に貸出物品や実施方法、トーチ使用本数について記載の上、交流の家に事前提出する。

※研修指導員に指導依頼する団体について特に以下の点に留意すること。

① 概ね実施の1週間前までに研修指導員と事前に打ち合わせの上、「確認表」を作成し、交流の家に提出する。

② トーチは「火の使」用(本) + 「火の子」用(本) + 送火用(2本)の合計本数が最低限必要である。

### (2) 会場準備

研修団体の実施担当者及びスタッフは、当日、原則として16:00から交流の家職員と実施場所  
で以下の会場準備を行う。

ア 会場係を中心に火床に薪を組む作業を行う。

イ 薪10束、灯油2Lを用意するとともに、トーチ棒の先端に、トーチ1本につき2個ずつ着火剤を取り付ける。

ウ 点火用の火種として、灯油をしみこませた新聞紙を点火箇所に設置しておく。

### (3) 実施後の清掃

※別紙「キャンプファイヤーの実施の仕方について」参照。

ア 終了後、消火を中心とした後片付けを行う。

イ たき火台に残った灰の片づけは、翌朝の清掃時間などに行う。

ウ トーチ棒や薪を持参した場合は、ごみや使用しなかったトーチ、薪を全て持ち帰る。

### (4) 購入物品の支払い方法

① ファイヤーセット(薪10束、灯油2L)と、トーチ棒用着火剤を交流の家で購入したときは、退所日の朝に交流の家事務室で請求書を発行する。

② 現金支払いを希望する団体は、上記の請求書を交流の家食堂に持参し、支払いをする。

### (5) 事前・事後報告

実施担当者は、ファイヤーの点火時と消火時に必ず事務室に無線連絡する。

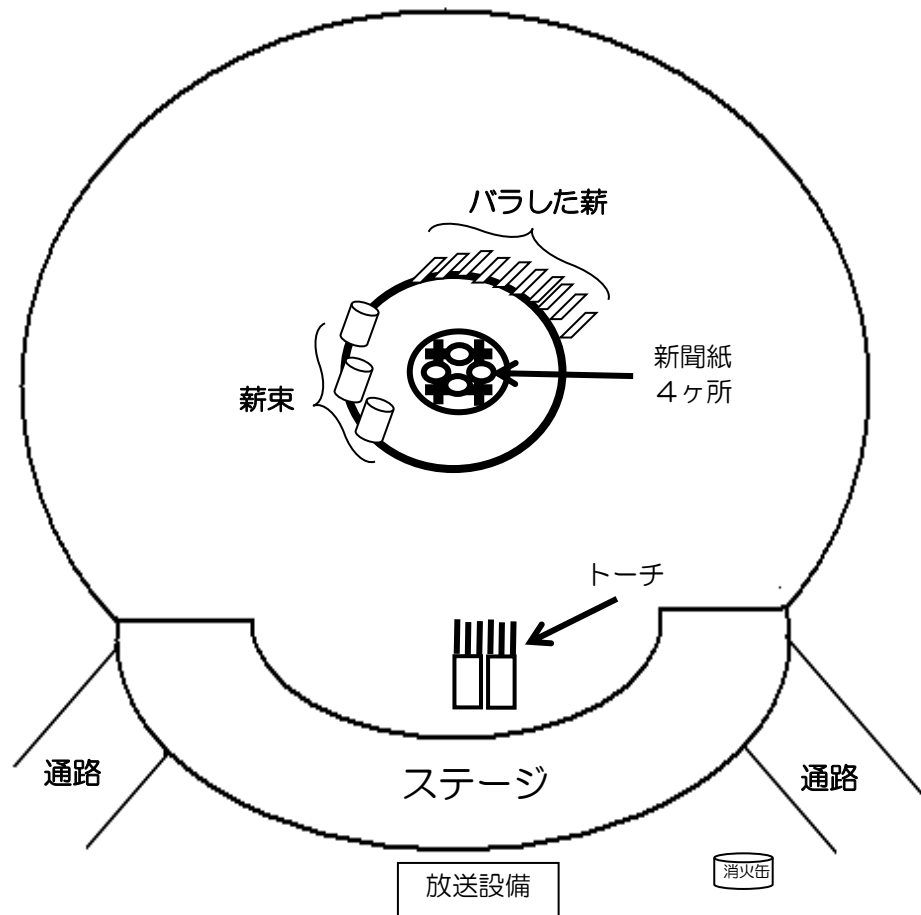
※これを受けて、交流の家から消防署に連絡を入れるため忘れず行うこと。

### (6) その他

会場への往復は静かに移動する。

## 7 会場図

※営火場の場合の例



## 8 歌

研修指導員に指導を依頼した場合に、以下の歌を歌う。ただし、指導者によってはカットすることもあるので、研修指導員との事前打ち合わせで確認する。

- ・「遠き山に陽は落ちて」
- ・「燃えろよ燃えろ」
- ・「ふるさと」
- ・「校歌」
- ・「蛍の光」
- ・「今日の日はさよなら」